



令和5年度 FCP（フード・コミュニケーション・プロジェクト）若手フォーラム概要

農林水産省
大臣官房新事業・食品産業部食品製造課
食品企業行動室
フード・コミュニケーション・プロジェクト事務局

1. 若手フォーラム

●趣旨

食の安全・消費者の信頼向上への取組は食品関連事業者にとって終わりのない取組であり、次代を担う若手社員が受け継いでいくことで、人材育成や相互の関係づくりが持続的なものとなり強化されます。

FCPでは、食の安全に対する取組やコミュニケーションのあり方、食をめぐる社会環境の変化を学び、参加者が食の安全・信頼向上の観点から企業行動を考えることを目的として、若手フォーラムを開催しています。

●フォーラム詳細

- 全6回（若手フォーラム5回＋活動報告会）
- 対面・WEBを併用するハイフレックス形式
 - ※第1、5回、活動報告会は対面参加推奨
 - ※社会状況によりWEB開催となる可能性あり
 - ※対面会場は農林水産省またはその周辺会議室、WEB形式はWEB会議システム「webex」を使用
- 開催日程（予定）：第1回 6/28、第2回 7/26、第3回 9月、第4回 11月、
第5回 1月、活動報告会 2月
- フォーラム構成
 - 第1～4回：FCPの基本的な考え方や近年の社会環境・消費者意識の変化・先進的な取組等についての有識者からの講演と、チーム毎に「課題に応じた食品事業者の取組」について考えるワークショップ（WS）を実施
 - 第5回：活動報告会に向けた成果物を作成
- 開催時間は原則午後 ※第5回は成果物作成のため午前中からの開催予定
- WS時はチームファシリテーター及びその回のリーダーにディスカッションをリードしていただきます
 - ※チームファシリテーターは参加者とは別に、事務局からお願いしているチームのサポート役です

1. 若手フォーラム

●参加者

- FCPのネットワーク参加者登録をしている企業・団体に所属する若手・中堅社員
- 所属部署は限定せず、品質管理、製造、お客様サービス、営業、人事、店舗スタッフ、等幅広く募集
- 参加者は年間を通して同一とし、毎回出席してください

☆ご参加にあたり☆

フォーラムを充実させるため、フォーラム時間外でいくつかお願いがございますのでご承知おきください。

①事前課題：

ワークショップの準備として、テーマに沿った課題が出ます。フォーラム1か月～2週間前に送付されるフォーマットに沿って実施し、当日までにチームメンバー内で共有いただきます。（パワーポイント1～2枚程度）

②事前打ち合わせ：

ファシリテーターからワークショップの進め方について説明があります。説明を受けておくと、当日の意見交換をスムーズに進めることができます。フォーラム2週間程前に1時間程度WEB形式にて実施し、チームから1名以上の参加をお願いしています。 ※チームからひとりも参加できない場合は事務局とメールにてやりとりのこと

③最終成果物：

フォーラムで1年間学んだ集大成としてチーム毎に成果物を作成し、活動報告会で発表します。発表する成果物を作成するために情報収集や資料作成、発表準備があります。

フォーラムに参加すると、業界の垣根を超えた仲間ができます。
参加者同士のコミュニケーションを積極的に取りましょう！
事務局からも任意で参加できる時間外でのWEB交流会等を提案します。



2. プログラム（予定）

回	テーマ・講演タイトル
第1回 (6月28日)	食の信頼の確保 《FCPの成り立ちから食品安全文化について学び、参加者同士の交流を深める》
	講演1 FCPとは～食品安全文化の醸成～
	WS 若手フォーラムで学びたいこと
第2回 (7月26日)	食品安全と品質 《食の安全の基本となる品質保証を学び、他社との情報および意見交換を実施する》
	講演1 品質保証のための規格認証について
	講演2 企業の品質保証の取組
WS これからの品質保証に必要な新しい要件や協働でできる取組を考える	
第3回 (9月)	信頼を高めるコミュニケーション 《エシカル消費（倫理的消費）を促すコミュニケーションを考える》
	講演1 持続可能な社会のための消費者教育
	講演2 消費者のサステナブル意識・消費行動に対応する取り組み
WS 消費者がエシカル消費したくなる商戦・商品を考える	
第4回 (11月)	社会環境の変化 《多様化する食品産業をあらゆる角度から分析し、食品産業の未来を予測する》
	講演 世界の食トレンド～あらゆる角度から～
	WS 最終成果物作成導入（テーマ決め等）
第5回 (1～2月)	◆最終成果物（2月活動報告会にて発表）の作成 ※予備日設定

3. 令和5年度スケジュール（予定）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		若 第 手 1 フ 回 オ ー ラ ム 6/28	若 第 手 2 フ 回 オ ー ラ ム 7/26		若 第 手 3 フ 回 オ ー ラ ム		若 第 手 4 フ 回 オ ー ラ ム		若 第 手 5 フ 回 オ ー ラ ム	F 令 C 和 P 5 活 年 動 度 報 告 会	

令和4年度の模様

【①講演 ②ワークショップ ③チーム発表の様子】

①



②



③



(参考) 令和4年度 若手フォーラム講演内容



- 第1、2、4回ハイフレックス形式、第3回WEB形式、第5回は2日程4チーム毎のハイフレックス形式で開催
- チーム毎のWSでは全体ファシリテーター主導の下、チームファシリテーターがサポート

回	講師/講演タイトル
第1回 (5/31)	講演 株式会社BMLフード・サイエンス 大澤 幸弘氏、政策研究大学院大学 神井 弘之氏 / 「FCPと協働の着眼点、ベーシック16について」
	NPO法人食の安全と安心を科学する会 (SFSS) 山崎 毅氏 / 「食の安全・安心に係わるリスクコミュニケーション」
	WS 株式会社フードサンテーション78 山下 安信氏 / 「リスクコミュニケーションの実践」
第2回 (7/29)	講演 The Consumer Goods Forum, Japan 新藤 理子氏 / 「ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム (CGF) の活動とサステナビリティの取組について」
	大阪大学人間科学研究科 講師 木村 友美氏 / 「食の選択とプラネタリーヘルス～多様性の観点から～」
	WS 株式会社フードサンテーション78 山下 安信氏 / 「食における課題と社会環境の変化」
第3回 (9/6)	講演 専修大学商学部 教授 渡辺 達朗氏 / 「フードシステムの循環経済化と食品のECのビジネスモデルについて」
	セブン&アイホールディングス株式会社 執行役員 釣流 まゆみ氏 / 「セブン&アイグループのESGの取り組み『GREEN CHALLENGE2050』達成にむけて」
	WS 株式会社フードサンテーション78 山下 安信氏 / 「食品産業におけるサーキュラーエコノミーの取組について」
第4回 (11/29)	講演 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授 名和 高司氏 / 「食品企業が向き合うべきESG課題、CSV経営について」
	キリンホールディングス株式会社 CSV戦略部 大内 康臣氏 / 「キリングループのCSV経営とガバナンスについて」
	WS 株式会社フードサンテーション78 山下 安信氏 / 「食品産業におけるガバナンスとCSV経営」
第5回 (1/25,26)	WS 活動報告会における発表資料 (最終成果物) の作成 「社会環境の変化に応じた食品事業者の対応」 ※第5回は講義はなし

(参考) 令和4年度 各チームの最終成果物



Aチーム

『フードロスから始まる地域食堂 in雲仙市』

チームメンバー
有坂、岩永、江澤、香取、小池、竹下、廣本、毎田、森野

島原半島

2023. 2. 15
FCP活動報告会

ミールキットで JAPAN POWER

地産地消で「おいしく」「楽しく」日本を元気に！

Dチーム
米澤 仲田 高碓 十文字
西岡 佐藤 山崎 中井

ファシリテーター
堀さん

**廃棄食品を利用した環境に優しい
ミールキットの開発**

Gチーム
伊藤 管
木村 佐藤
杉山 山本
吉田 渡邊

http://www.maff.go.jp/j/shokusan/fcp/index.html

バズエコプロジェクト
～人と地球を健康にしてバズろう！～

Bチーム

Everyone's Future with Rice

2022年度FCP若手フォーラム
Eチーム

2023/02/15

FOOD COMMUNICATION PROJECT

FCP活動報告 H班
～目指す未来：食へのアクセス2050～

株式会社タカキベーカーリー 佐藤 勇介
有限会社和泉屋 太田 瑞穂
キュービー株式会社 平尾 隆介
テーブルマーク株式会社 宮崎 瞭子
株式会社日清製粉ウェルナ 武井 友里恵
株式会社ベニレイ 加藤 裕朗
農林水産省 浅井 皓展

**あの時こうしていればよかった
2030**

消費者の食に関する当事者意識の醸成、社会環境の変化

令和4年度FCP若手フォーラム Cチーム

リーダー 江口祥吾
大塚恵
メンバー 和田高明
長谷川渉
高橋桃香
早田紗己
村松大吾

https://pixabay.com/ja/
FCP若手フォーラム Cチーム 2023/2/15 1

**PROJECT FCP
NEW ZERO WASTE FOOD**
～食品廃棄物実質ゼロの明るい未来～

Team Food (F)
株式会社生活品質科学研究所 山下 淳造
双日株式会社 須田 瑠璃
テーブルマーク株式会社 針谷 俊彦
日清製粉株式会社 佐藤 大樹
株式会社不二家 石原 洋野
株式会社ベニレイ 磯崎 誠
株式会社ローソン 農林水産省

参考（令和4年度 参加者の声）

◇参加者からのご意見（一部抜粋）

【勉強会内容】

- ・現在注目されているトレンドについて企業の取組や研究者の方の講演を聞くことができ非常に参考になった。
- ・1回～5回のフォーラムがそれぞれつながっており、参加することで社会課題の解決の為に企業がどのような行動を行うべきか知見を高め、自分にはない発想を持つことができた。

【コミュニケーション・ワークショップについて】

- ・ハイフレックス形式は、対面とWEBのお互いの参加者のコミュニケーションが難しかった。工夫が必須である。
- ・講義も興味深かったが、ワークの時間も多く取ってもらえるとより議論が深まる。
- ・回数を重ねるごとに、スムーズに進行はできるようになった。作業ツールの活用等出来るともっとWSも深まるのでは。
- ・チームファシリテーターがいることで、議論が詰まった時に助けてもらった。

【フォーラム全体について】

- ・日々の業務と直接的でない広い視野の話聞く機会として面白い内容が多くあった。
- ・様々な食品業界の参加者と関わることで考え方を吸収することができた。

◇参加者上長からのご意見（一部抜粋）

【最終成果の発表について】

- ・時間のない中、対面での作業時間も限られていたが、最終成果物は各チームよくまとまっておりました。
- ・共同でプレゼンを行う経験は非常に貴重だったと思う。

【ハイフレックス形式でのコミュニケーションについて】

- ・若手フォーラムに参加させる目的の一つは他社の方との交流だったので、ハイフレックス形式はよかった。
- ・対面とWEBでの温度差、空気感の違いにより、やりにくいところもあったようだ。
- ・遠方の方の負担を減らせたり、より多くの方が聴講できるのでよかった。
- ・出張が多い部署の参加者にとって、ハイフレックス形式ですべて参加できたのでよかった。

【参加者の成長について】

- ・担当業務経験をもとに事前資料を取りまとめるなど、自分の業務を振り返る良い機会となった。
- ・積極的に自分の意見をまとめたり、情報収集しようとする姿勢が見られた。
- ・属性や風土が違う仲間が集まって一つのを創り上げることで感化され、日常業務でも積極性が増した。
- ・他業種との交流がかなり刺激になったようで、常識や時間感覚、世界観のようなものの違いを熱心に語って来る者もあり、ものの見方の幅は確実に広がったと感じた。
- ・目の前の業務だけでなく、将来を見据えた上で今何をしなければならないかを考えられるようになった。